

大
だ
こ
来
は
未

携帯端末省エネ研究 シンガポールの機関と

公立はこだて未来大学
の高木剛教授らの研究グループはシンガポール国立情報通信研究所(I2R)と共同で携帯端末用

の省電力化や暗号処理などの研究を進める。二年後の実用化を目指す。携帯端末機を使ったセンサーネットワークは農

場の温度や倉庫管理などに利用される。乾電池で端末機を動かせるため、初期投資が安価になる利点がある。一方で電池の

消耗が早いことや、雷など自然災害でデータに変わりが生じやすいなどの問題点もある。

高木教授ら日本チームは、電池をより長持ちさせ、電圧をより長持ちさせるためにデータの効率的な処理を実現するシステムの開発を担当。I2Rはデータを保護する

技術に取り組む。研究費用は年間六百八十万円で、双方が半額を負担する。今年中に基礎研究を終え、来年から実証実験に着手する。

I2Rは二〇〇二年に設立。約三百人が通信技術や情報セキュリティなどの研究に携わる。